

美浦村長 中島 栄 様

むらづくりに関する提言・要望

美浦村議会議長 石川 修

美浦村議会議員会長 沼崎 光芳

昨今、議会は住民に対し説明責任を果たすことが、大変重要になってまいりました。

これから議会在直面する諸課題に対処するためには、議会改革や議会活性化といった取り組みが極めて重要視されています。

美浦村議会でも議会改革及び議会活性化の機運が高まり、昨年5月より地方自治研究会で住民が参画できる開かれた議会づくりを実現するため、議会活性化策を検討してまいりました。

先月議会活性化の第一歩として、商工会を対象に一般会議（むらづくり懇談会）を開催いたしました。この会議ではむらづくりのため、下記の4つのテーマについて活発な意見交換を行いました。

- 【1】まちおこしのブランド化の推進やPRについて
- 【2】もし物産館が建設されるとしたらどのような協力ができるか
- 【3】後継者不足問題について
- 【4】その他

今後、美浦村の商工業の振興や魅力ある地域づくり、さらには地域発展の基盤となるプロジェクトの推進のため、今回の会議で提起された問題点、意見等をまとめ、以下のとおり提言・要望する。

【1】まちおこしのブランド化の推進やPRについて

近年、地方自治体などが衰えた経済力や賑やかさを向上させるため、地場産品の発掘や開発、ご当地キャラクターなどのまちおこしが、盛んに行われている。

現在、人口流出が加速している中で、「まちおこし」は喫緊の課題である。

「美浦のいいところ」を探し、作り、受け身ではなく、積極的にPRを推進、強化すべきである。

観光的な開発として、安中地区、陸平貝塚や馬掛台公園、大山病院跡地の開発を進め、その中で、いろいろなイベントも同時に提案すべきである。

例えば、ご当地グルメなどを広く募集していき、「美浦にしかないもの」のブランド化を図りたい。

事業の成功には、行政と農・商・工の協力関係が、大変重要になってくる。

行政が、先頭になって、農・商・工の連携強化に努め、よりよいむらづくりを検討する場を創設するよう強く要望する。

【2】もし物産館が建設されるとしたらどのような協力ができるか

観光及び地場産業のPR、販売施設の整備が急務である。

せっかく、美浦村のいいものがあったとしても、販売する場所、時間が限られてしまう。美浦村の特産物が、欲しくて美浦村に来たのに、買うことができない。観光名所がどこにあるか分からない。という意見があった。

地場産業の育成、住みよい活力あるまちを実現するために設置された「美浦村物産館建設委員会」の中で、積極的な行政のリーダーシップの発揮と関係機関の協力の促進に注力され、建設の実現に向け、より具体的な協議をすべきである。

なかなか解決できなかった地産地消の問題も、この物産館建設を契機に解決の方策を検討すべきである。

関係機関である美浦村商工会では、「物産館建設については、必ずしも反対ではない。」「できる事なら協力します。」とお力添えのお言葉をいただきました。

行政の推進に向け、更なるリーダーシップを発揮するよう、強く要望する。

【3】後継者不足問題について

人口減少により、産業や地域活動の担い手が不足し、基幹産業である農業など、担い手や後継者不足も顕著になりつつあるのが現状である。

特に商業者にとって、人口減少は死活問題である。

若者の「美浦村離れ」などを防ぐため、定住化促進の施策をより強化されたい。

村営住宅の建設、体験式の出会いの場の提供など、若い人が集まり、いつまでも美浦村に住んでいたいと思える、魅力ある村づくりのために努力されたい。

より現実味を帯びたイベントなどを充実させ、広く関係団体に協力してもらえ体制を確立し、その中で、多方面の意見を集約できる組織づくりを強く要望する。

【4】その他

都市計画マスタープランの実現、都市計画の見直し、契約、条例の見直し等多方面の意見をいただいた。

多くの意見をいただいた中で、議会としては、今後、地域の特色や立地条件、歴史的背景を生かし、関係団体の協力、組織化など独自性のある、むらづくり施策の計画・実施を執行機関に強く要望する。

平成25年3月18日

以上